

## 東京丸の内ロータリークラブ

### 第20回 例会議事録

2019年1月9日(水)

会場 センチュリーコート丸の内  
コンパートメント・ルーム

## ① プログラム

司会進行 久保田佳代会員  
開会点鐘 尾崎由比子会長

- ◆ 卓話者紹介 (久保田佳代会員)
  - ・独立行政法人国際協力機構(JICA)  
オルタナティブ教育推進プロジェクト  
チーフアドバイザー 大橋 知穂 様  
「オルタナティブ教育推進プロジェクト  
～社会に開かれた教育を目指して～」

- ◆ ゲスト・ビジター紹介 (久保田会員)
  - ・ゲスト：塚本 中小路 乃理子 様  
(株式会社升本フーズ 取締役)
  - ・ビジター：河邊 幸夫 様 (東京赤坂 RC)

- ◆ ニコニコ報告 (渡邊寿一会員)
  - ・尾崎 由比子 会長  
「年末に手術をして無事歩けるようになりました。会員の皆様には沢山のお見舞い、お励ましの言葉をいただき、ありがとうございました」

- ・塩島 由晃 幹事  
「明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します」
- ・臼杵 紗季 会員  
「大橋様、本日は有難うございます。どうぞ宜しくお願いいたします」
- ・今井 克枝、藪口 真太郎会員  
(本日合計 26,000 円 <累計 1,129,500 円>)

- ◆ 1月お誕生日お祝い  
今井克枝会員、尾崎由比子会長、  
古山真紀子会員 (欠席)、藤本久美子会員



## ② 会長報告 尾崎会長

### (1) 来年度役員承認について

12月26日に行われました年次総会におきまして、指名委員会の決定の通り、全員一致で以下の方々が承認されました。

- ・会長ノミニー： 嘉納英樹
- ・専任副会長： 塩島由晃
- ・幹事：渡邊寿一
- ・会計：今井克枝

## (2) JICA 大橋様の活動支援について

本日の卓話者 JICA の大橋知穂様の活動（パキスタンにおける女性の識字率向上）についてですが、現在第 2580 地区では女性に対する支援はあまり行われておりません。女性会員の多い丸の内ではそのような活動が出来たらよいのでは、ということで、今年度事業計画書の国際奉仕委員会の部にすでに記載しております。ですから今日は、丸の内としてどのような支援が出来るかを考えながら卓話を聞いて頂きたいと思えます。

なお、皆さんは「寄付」と「募金」の違いをご存知ですか？寄付は自らの意思に基づいて金銭・財産を無償で供与すること。募金は単に寄付金を集める行為を言います。なので、皆様のご意思を持ってどのような寄付ができるかをお考え頂きたいと思えます。

新しい年に入り、これからも丸の内ロータリークラブとして有意義な活動が出来るように考えて参りますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

## ② 副会長報告 朴会長エレクト

### 第3回心のバリアフリー・チャリティーセミナーについて

第3回につきましては、参加人数が少なく、開催が難しいということで、本当に残念に思っております。今後、集客の仕方や会員の参加についての原則をどうするかについて、社会奉仕委員会で話し合いを開始いたしました。これを Facebook に上げますので、皆様からどんどんご意見を頂き、それをまとめて理事会にご承認いただくようにしていきます。皆が同じようなイメージで今後のセミナーが出来ればと思います。現在第3回については流動的です。温かい目で見守っていただければと思います。

## ③ 幹事報告 塩島幹事

### (1) 来年度ロータリー財団地区補助金プロジェクトについて

当クラブの申請が地区から承諾されました。今後本部の方に向けられ、採択されるかどうかは4～5月に決まります。まずは1つ目のハードルをクリアしたということをご報告いたします。

### (2) 東京丸の内ロータリークラブ加盟認証一周年記念の日程について

今週中に日程を定めますので、ご回答をお願いします。

### (3) 職業奉仕委員会より：職業奉仕月間について

今月は職業奉仕月間ですので、パンフレット（「職業奉仕の手引き：実践しよう」）をお配りしました。「高潔性と倫理」の中で「四つのテスト」についても書かれておりますので、今一度ご確認ください。

## ④ 出席報告 臼杵会員

|     |      |      |       |
|-----|------|------|-------|
| 会員数 | 21名  | ゲスト  | 1名    |
| 出席数 | 19名  | ビジター | 1名    |
| 欠席数 | 2名   | 出席率  | 90.5% |
|     | 前回修正 | 出席率  | %     |

## ⑤卓話： 国際協力機構(JICA) オルタナティブ教育推進プロジェクト チーフアドバイザー 大橋知穂様

2019年1月9日

独立行政法人国際協力機構 (JICA) チーフアドバイザー 大橋知穂氏卓話内容

## 「オルタナティブ教育推進プロジェクト ～社会に開かれた教育を目指して～」

まず、世界の教育に関する状況を観ていただきますしょう。

ユネスコの統計では、学校に行っていない子ども・若者は2億5千万人、また、学校に行っているけれど、基礎的な国語・算数が出来ない子どもは3億3千万人いると出ています。たとえば、インドの農村部の子どもうち、「46-17」など2ケタの引き算が解けない子どもが3年生の3/4、5年生でも半数近くいるのです。

このままの状況が続けば、2030年には、学齢期の子ども・若者の約半数8億人が学校に行っていない、あるいは学んでいない状況になるのです。世界銀行の調べでは、途上国における初等・中等教育で、その後の人生に役立つような教育を受けられないが故に成人後に、様々な機会を逸したり、低賃金労働に甘んじざるを得ない児童・生徒が数百万人に上るというデータも出ています。

こうした学習危機は、貧困や紛争、ジェンダー、障がいなどの理由からただでさえ不利な立場にある人のさらなる社会格差を拡げることに繋がっています。

2013年の時点でも、7億5千7百万人の成人(15歳以上)が読み書きできない状態にあり、その3分の2が女性です。

次に、パキスタンの教育現状についてです。

パキスタンの人口は約2億人、その内学齢期(5歳~16歳)の人口は5,100万人、その内の2,260万人が学校に通っていないのです。この数値はいつも訊かれるのでお伝えしますが、世界ワースト2位です。また、これと関連して、5歳から16歳まで

のパキスタンシンド州の子どもと若者1,230万人のうち、学校に行っていないのは670万人、うち350万人は女子で、やはり女性の方が多いです。

ここで、南アジア地域の識字率比較の表をご覧ください。ユネスコの表では60とありますが、現在下がってしまってパキスタンの識字率は58%です。

こうしたパキスタンの教育の問題点は3つあります。

・1つめは、教育の重要性の認識不足です。短期的に投資して結果が出るモノではなく、中長期的に土台をつくっていくものには予算がつかない。

・2つめは、教育が社会(生活)のニーズに合っていないということです。教育が学校内だけで閉じられていて、社会に開かれていないということ。

・3つめに繋がりますが、公共の教育は詰め込み教育で、制服やノートや鉛筆などの消耗品などの経済負担がかかる割に、学んだことで日々の暮らし(経済)が上向きになるわけではない。学ぶことで豊かになる見通しがつかない・・・ということなのです。

さて、写真はパキスタンの最貧困層の家庭の写真で

す。テレビはあっても、カレンダーや時計、新聞雑誌の類がない事がわかります。

私たち日本人は生きている生活圏の中に文字があふれています。子どもに絵本を読んだり、その中で「この字は何の字かな？」など子どもの興味関心をはぐくむアプローチが自然となされていますよね。

読み書きができないと、次の事が大変なのです。

・市場でだまされる。農作物を買いたたかれる。



- ・バスの行き先がわからない。  
※〇〇行はどのバスに乗ればいいですか？と聞く  
と行き先が書いてあるだろうと言われてたら  
恥ずかしい。こうした積み重ねから自信が無く  
なり、行動が狭まり機会が無くなっていく。
- ・病気の予防や、衛生についての情報がないため、  
病気になりやすい。  
※病気になっても、症状を伝えられず、適切な処  
置を受けるまでに、時間がかかったり、手当の仕  
方がわからず、悪化させることもある。
- ・薬の分量を間違えたり、農薬を間違えて飲んだり  
して生死に関わることもある。
- ・災害の時に被害に遭いやすい。災害時は情報が頼  
りですが、情報を受け取れない。回復も遅い。
- ・小規模（少額）融資などの情報を知らない。知っ  
ていても、どう申請していいかわからない。
- ・社会保障を受ける機会、選挙で投票する機会を逃  
す。

こうした課題に取り組むため、JICA では、2004  
年から、学校に行けない、行ったことが無い人た  
ちの夢をかなえる場所として、ノンフォーマル教育、  
オルタナティブ教育プロジェクトを通じて、「いつ  
でも、どこでも、いくつになっても」 学ぶチャン  
スを得て、自分を変えていきたい人たちのセカン  
ドチャンスを提供しています。

対象は、学校に行ったことがない、あるいは中退し  
た子ども、若者、大人たちです。

学校へのアクセス（場所、時間帯、など）の工夫や、  
ニーズにあった、対象者に適切なカリキュラムの  
作成することで「学校教育より安上がり、即応性  
がある。」と、当事者たちに実感してもらうために、  
職業別識字教材の開発、(ENGRO Tahr プロジェ  
クトと塗装工むけの教材を活用) など、各州政府機  
関や他の援助機関（世界銀行、ユニセフなど）、地  
元の NGO と協働し、システムの確立及び拡大を  
支援してきました。

オルタナティブ教育推進プロジェクト Advancing  
Quality Alternative Learning (AQAL)  
= ウルドゥ語で Wisdom の意です。このプロジェ  
クトは今年の 10 月で一旦の区切りを迎えますが、  
期間内に課題は解決するわけではありません。



- 子ども・若者の識字・基礎教育がないことは
- ・経済発展に必要な基礎知識や技術を持った労働  
者の不足  
(マニュアルが読めない、職場の作業安全基準  
が読めない、記録ができない、創意工夫ができない)
  - ・生産性・質の悪化  
(他国との競争に勝てない)
  - ・社会不安  
(治安の増加、テロの脅威、交通事故、保健衛生、  
貧富の格差の拡大による不満の増大)
  - ・自然災害や天候不良などの状況に対応できない、  
そこからの復興の遅れ  
(レジリエンスがない)
  - ・女性の社会進出、社会的な地位の向上が進まない
  - ・環境汚染・自然破壊
  - ・負の連鎖  
(次世代の子どもたちにも続く貧困の連鎖)

といった脅威につながります。アジア初ノーベル経済学賞受賞者であるインドの経済学者アマルティア・センは、「読み書き、計算、あるいは意思伝達ができないことは大変な困窮状態である。安全でない状態（Insecurity）の最たるものは、生きる上で必要なものが確実に欠乏しているのに、その運命を回避する機会がないことである。」といった脅威に対し、「基礎教育を普及させ、その効力を拡大すれば、人間の安全を脅かすほとんどの危険に対して、おおむね強力な予防効果を発揮することができる」という言葉を伝えています。

### 持続可能な開発(SDGs) 識字と基礎教育は、すべてのゴールの基盤



最後に、識字と基礎教育は、SDGs に挙げられる 17 の目標すべての基盤となる、ということをお伝えして卓話を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

#### 【質疑応答】

(問) ロータリーとして支援を考える上で、具体的に何がよろしいのか？

(答) 例えば教材の「印刷費」。あるいは幼児死亡率が高いので「母子手帳」のようなもの。あとは、現地に来て頂いて直接触れて頂きたい。

(問) 教育の一環として運動用具の支援、例えばサッカーボールなどは？

(答) よい。なかなか運動をやらない国だし、校庭がなかったりするのです。

(問) なぜパキスタンなのか？

(答) JICA のプロジェクトがパキスタンだったということだが、実際学校へ行っていない子供の数

がワースト 2 なので、オルタナティブ教育の必要性の高い国と言える。

(問) イスラム教との兼ね合いは？

(答) 確かに「女は守られるべき」という土着の考え方に加え、宗教的な教えとして「女は家から出ない方がよい」というのがあるので、無関係とは言えない。ただ、イスラム教だから出来ないということでは全くない。

(問) 現地の学校システムは？

(答) パキスタンには①イギリス式のエリート学校、②普通の公立学校（5歳から10年間＝義務教育）、③マドラサという宗教学校がある。義務教育は憲法で定められているが、現実には機能していない。また、教育制度が計画的でなく、小学校の占める率が8割くらいになっている。中学校、特に女子中学校のニーズは高い。地域によるが、小学校は男女共学、中学校からは男女別であることが多い。

(問) 教育の男女格差はいかがか？

(答) 日本もかつては格差があった。恐らく20年くらいはかかると思う。女性はとてもよく働くが、特に農村部においてそれが職業につながらない。将来的には女子教育が保健師や教師、また、家の中でも出来るコンピューターなどのような女性向けの職業訓練に発展するようなプログラムを現在開発している。

(問) 男女で識字率の差が出るということは、学校に行かせない親がいるということか？

(答) 田舎で子沢山だと、女子は子守に駆り出されがちだし、そもそも女は外に出したくないという社会通念がある。ただ、一旦学校に行かせるとそのメリットもわかるので、親も行かせるようになる。

#### 【紹介者竹之内会員より】

大橋さんの活動を実際行うことは難しいが、ロータリーの会員として皆様に「知って頂く」ことは出来ると思ひ、ご紹介いたしました。皆様のご意思でご寄付をお願いします。今後そのご寄付をどんな活動に生かしていくのかもメールでご案内します。

今回大橋さんは謝礼金を固辞されましたので、代わりに丸の内ロータリークラブのボールペンを進呈いたします。

---

## ⑥ 今後の予定 田路会員

---

次回1月23日は、青木会員と白杵会員にインニエーションスピーチを行って頂きます。3月以降は未定です。今回のように外部の卓話者を推薦したい方は、私の方に早目にご連絡願えれば調整いたします。

◆ 閉会点鐘 尾崎由比子会長  
( 議事録作成：事務局桑原、卓話まとめ竹之内)